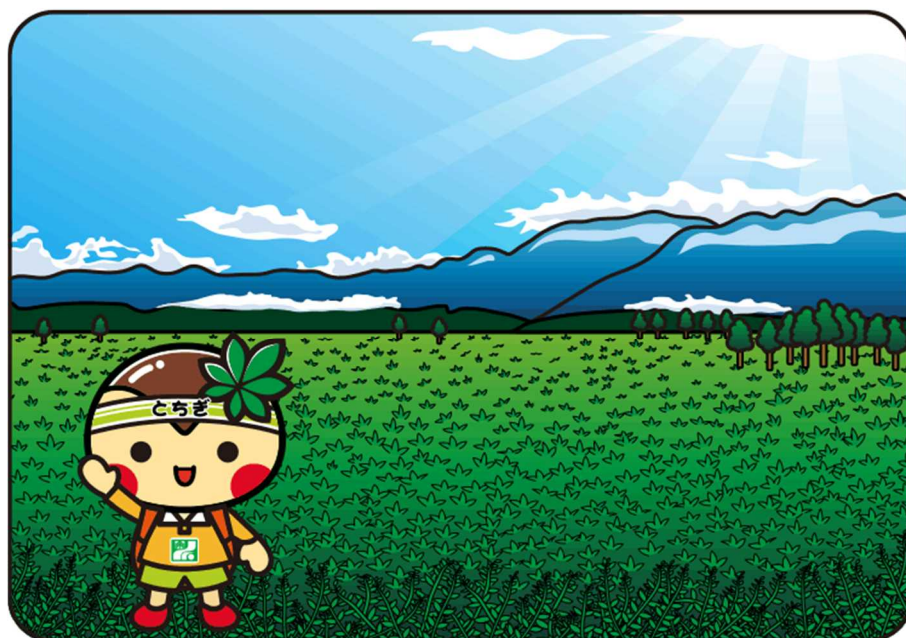


日光国立公園 ステップアッププログラム2020

日光国立公園満喫プロジェクト地域協議会



日光国立公園ステップアッププログラム 2020



日光国立公園ステップアッププログラム 2020 目次

はじめに	2
1. 現状分析	3
(1) 日光国立公園の特徴	
(2) 外国人観光客の状況	
(3) 日光国立公園の課題	
2. コンセプトと取組の方向性	13
(1) 日光国立公園のコンセプト（基本概念）	
(2) 目指す姿と取組の方向性	
3. ターゲットとする利用者層	15
4. 目標	16
(1) 数値目標	
(2) 質的目標	
5. プロジェクトの実施	17
(1) アクセスルート上での取組方針	
(2) 日光国立公園全体の取組方針	
(3) 各エリア・ビューポイント（重点取組地域）の取組方針	
(4) 宣伝・誘客の方針	
(5) 取組のスケジュール	
(6) 推進体制	
(7) 地域ごとの取組の進め方	
6. 効果検証	34
(1) 目標達成率による検証	
(2) 聞き取り調査による検証	
(3) 検証内容の反映	
参考資料	35

はじめに

2016（平成 28）年 3 月に、政府により「明日の日本を支える観光ビジョン」がとりまとめられ、訪日外国人旅行者数を 2020（平成 32）年までに 4,000 万人とすることが新たな目標として掲げられた。

この目標の達成と裾野の広い観光を通じた活気ある地域社会の実現を目指すため、日本の国立公園が持つ、豊かな自然、地域に根ざした生活文化や地域産業、食等の魅力ある観光資源を活用し、そのポテンシャルを発揮することが必要となっている。

そこで、日本の国立公園を世界水準の「ナショナルパーク」としてブランド化することを目標に、訪日外国人の国立公園利用者数を、2020（平成 32）年までに、現在の年間 430 万人から 1,000 万人に増やすことを目指す「国立公園満喫プロジェクト」を実施することとなった。

この目標を達成するため、訪日外国人を惹きつける取組を先行的、集中的に実施する国立公園の一つとして日光国立公園が選定された。日光国立公園満喫プロジェクトでは、訪日外国人を中心に国内外から多くの観光客を呼び込むことで、交流人口を増加させ、それに伴う定住人口の増加による地方創生に取り組んでいく。

本プログラムは、2016（平成 28）年度から 2020（平成 32）年度までの 5 年間を計画期間とした、日光国立公園における具体的な取組についての“ロードマップ”として位置づけ、国・自治体・民間事業者が一体となって実施していくものである。

1. 現状分析

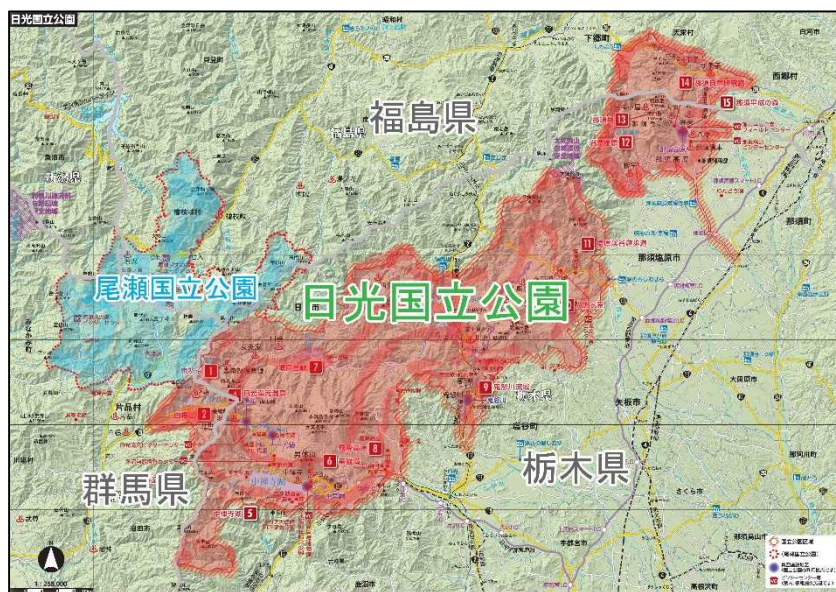
(1) 日光国立公園の特徴

ア. 全体の概要

日光国立公園は、1934（昭和9）年に誕生した日本初の国立公園の一つで、福島県・栃木県・群馬県の三県にまたがり、総面積は約11.4万ヘクタール。那須火山帯に属する山々や豊かな森林、溪谷、湖、滝、湿原等、火山群と水が織りなす自然景観が特徴で、ラムサール条約湿地「奥日光の湿原」等、世界的にも貴重な自然が広がっている。

春は花、夏は水、秋は紅葉、冬は雪と、日本の四季を満喫できる自然環境に加え、世界文化遺産「日光の社寺」や皇室ゆかりの施設、旧外国大使館別荘など、歴史・文化遺産も多数所在する。火山と水の恵みである温泉も豊富で、歴史ある古湯・秘湯が数多く点在する。

また、JR、東武鉄道及び東北自動車道が縦断しており、空港や主要駅から直通の高速バス等も運行されているなど、公共交通により東京から最短約2時間でアクセスが可能であり、東京から非常に近い位置にあることも大きな特徴となっている。



日光国立公園区域図



中禅寺湖と男体山



茶臼岳とゴヨウツツジ

イ. 各エリアの概要

(A) 日光エリア

日光エリアは、世界文化遺産「日光の社寺」や日光田母沢御用邸記念公園、旧大使館別荘等の多くの歴史・文化遺産や、開湯 1200 年超の歴史を誇り、国民保養温泉地第 1 号でもある奥日光湯元温泉を有し、本公園内で最も多く外国人観光客が訪れている。自然ガイドや文化財ガイドなど多彩なガイドツアーが提供されており、多様な文化体験も提供されている。

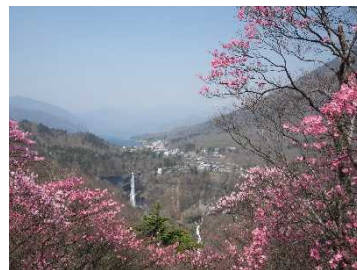
自然景観では、湖、湿原、滝など豊富な水環境が特徴。世界遺産周辺から奥日光湯元温泉まで約 1000m の高低差があり、気候や植生等の垂直方向の変化も楽しめる。



日光東照宮



英国大使館別荘記念公園



明智平から望む奥日光

(B) 鬼怒川エリア

鬼怒川エリアは、大温泉地である鬼怒川・川治温泉のほか、秘湯として知られる湯西川温泉、奥鬼怒温泉郷等、多くの温泉地が点在する。特に鬼怒川温泉は、大規模な温泉旅館もあり、団体客の受入れを積極的に実施しており、大型のテーマパークなど、キャパシティの大きな観光資源も所在する。

自然景観では、鬼怒川沿いに広がる溪谷が特徴となっている。温泉地近辺では、溪谷沿いを中心に遊歩道が整備されているほか、夏季はライン下りやラフティングなどの川を活用したアクティビティが、冬季はスノーシューなどの雪を活用したアクティビティが提供されており、宿などを基点に気軽な自然体験ができる。



奥鬼怒温泉郷



龍王峡(秋)



鬼怒川ライン下り

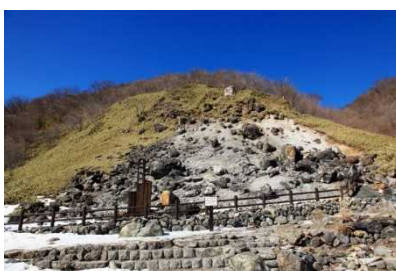
(C) 那須エリア

那須エリアは、那須御用邸が所在する皇室ゆかりのエリアとなっている。開湯 1380 年を超える歴史を誇る那須温泉郷や国民保養温泉地である板室温泉、温泉信仰、御神火祭などの祭、国指定名勝・史跡「殺生石」など、火山に関連する観光資源が多数存在するほか、国立公園区域内外には、牧場や美術館など各種の観光施設が点在しており、大人から子どもまで楽しめる高原リゾートとして知られている。

自然景観では、茶臼岳等の火山群と、山麓の森林が特徴。豊富な山岳・森林資源を活用した登山やトレッキング、ハイキング等の利用が盛んで、初心者から上級者までレベルに合わせた利用ができる。



御神火祭



国指定名勝・史跡「殺生石」

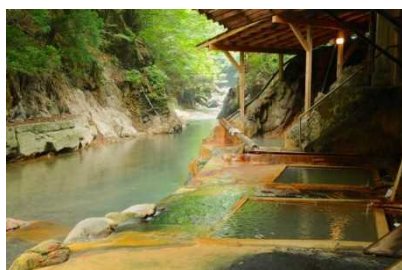


紅葉の茶臼岳

(D) 塩原エリア

塩原エリアは、開湯 1200 年超の歴史を持ち、日本の温泉の泉質 10 種類のうち 6 種類、3 性質 7 色の湯が湧出する塩原温泉郷を擁する。

箒川沿いに広がる塩原溪谷には遊歩道が整備されており、塩原温泉ビジターセンター主催のガイドツアー等が多数行われているほか、溪谷を活用したキャニオニング、ダム湖を活用したスタンドアップパドルボードなど、様々なアクティビティが提供されている。また、八方ヶ原はツツジの名所として知られ、遊歩道も整備されており、山の駅たかはら等を拠点にハイキング等も楽しめる。



塩原温泉郷



塩原溪谷(回顧の滝・秋)



スタンドアップパドルボード

ウ．主要なアクセスルートの現状

（Ａ）日光エリア

Ⅰ．世界遺産周辺までのアクセスルート

ＪＲ日光駅または東武日光駅から路線バスまたは徒歩等でのアクセスとなる。

駅からのアクセスルートは、世界遺産「日光の社寺」の門前町となっていることから、日光市の景観計画重点区域に指定されており、市の景観条例や屋外広告物条例により、屋外広告物の設置や色彩の制限、和風で伝統的な街並み景観の形成等が行われている。

また、県による歩行空間確保及び景観整備事業として、電線の地中化や歩道の拡幅、美装化等が進められているほか、市による道路の美装化も行われている。



電線地中化・歩道拡幅イメージ

Ⅱ．中禅寺湖畔、奥日光湯元までのアクセスルート

ＪＲ日光駅または東武日光駅から路線バスでのアクセスのほか、冬季を除き、群馬県側から金精峠を経由してのアクセスも可能となっている。

駅からのアクセスルートは、世界遺産エリアから先は全て国立公園エリアとなっており、日光市の屋外広告物条例による屋外広告物の設置や色彩の制限が行われている。

（Ｂ）鬼怒川エリア

Ⅰ．鬼怒川・川治温泉までのアクセスルート

東武鉄道鬼怒川温泉駅及び野岩鉄道川治湯元駅から路線バスまたは徒歩等でのアクセスとなる。

駅からのアクセスルートは、全て国立公園エリアとなっており、日光市の景観条例や屋外広告物条例により、屋外広告物の設置や色彩の制限が行われているほか、自然と温泉街の賑わいが調和するような街並み景観づくりが進められている。

Ⅱ．湯西川・川俣・奥鬼怒までのアクセスルート

野岩鉄道湯西川温泉駅から路線バスでのアクセスが可能で、奥鬼怒地区では、女夫淵から先の一般車両の乗り入れ制限が実施されている。

駅からのアクセスルートは、全て国立公園エリアとなっており、日光市の景観条例や屋外広告物条例により、屋外広告物の設置や色彩の制限が行われているほか、ダム建設に合わせた市街地の移転に伴う区画整理や道路の拡幅等も行われている。

湯西川温泉の中心部は日光市の景観計画重点区域に指定されており、平家落人の里、山間の秘湯としての雰囲気づくりが図られている。

（Ｃ）那須エリア

Ⅰ．那須高原・那須温泉郷までのアクセスルート

J R那須塩原駅から路線バスでのアクセスとなる。

駅からのアクセスルートは、那須高原を縦断する那須街道沿線等が国立公園エリアとなっているほか、那須塩原市・那須町の景観形成重点地区に指定されており、両市町の景観条例や屋外広告物条例、栃木県のとちぎふるさと街道景観条例により、建物の形状や色彩の制限、敷地の緑化、屋外広告物の設置や色彩の制限等による景観保全の取組が行われている。



とちぎふるさと街道(那須街道)



屋外広告物の色彩制限イメージ

Ⅱ．板室温泉までのアクセスルート

J R那須塩原駅から路線バスでのアクセスとなる。

駅からのアクセスルートが那須塩原市の景観形成重点地区に指定されているほか、一部がとちぎふるさと街道景観条例の対象地域となっており、屋外広告物の設置や色彩の制限、敷地の緑化等が行われている。

(D) 塩原エリア

I. 塩原温泉郷までのアクセスルート

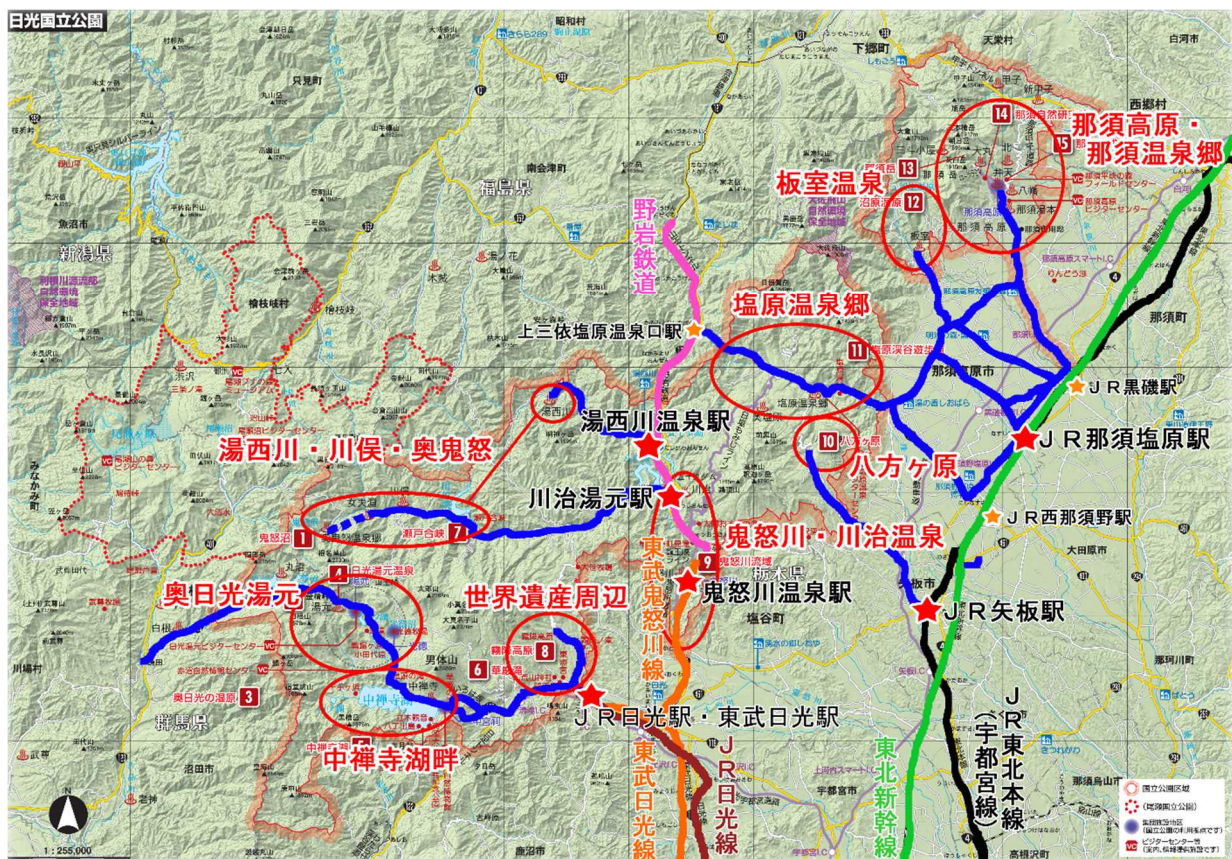
J R那須塩原駅からバスでのアクセスとなる。

駅からのアクセスルートが那須塩原市の景観形成重点地区に指定されており、屋外広告物の設置や色彩の制限、敷地の緑化等が行われている。

II. 八方ヶ原までのアクセスルート

J R矢板駅からタクシー利用でのアクセスとなる（路線バスは運行していない）。

駅からのアクセスルートは、栃木県の景観条例及び屋外広告物条例による規制誘導が図られているが、市街地を抜けるとほとんどが山道となっている。



アクセスルート概要図

（２）外国人観光客の状況

2015（平成 27）年度の利用者数推計値では、約 19 万人の外国人が日光国立公園を訪れている。

2015（平成 27）年の宿泊者数推定値では、約 9 万 6 千人が日光国立公園及びその周辺に宿泊している。

以上のことから、日光国立公園を訪れる外国人観光客は、半数程度が日帰りでの訪問であることが推測できる。

また、訪日外国人全体や全国の国立公園利用者全体では、中国・韓国が 40%以上を占め、欧米豪は 15%程度、タイは 5%程度であるのに対し、日光国立公園では、訪問者・宿泊者のうち中国・韓国は 15%以下、特に訪問者では欧米豪が 35%、タイが 20%となっており、全国的な傾向と比較して、日光国立公園を訪問する外国人観光客は、中国・韓国の割合が低く、欧米豪やタイの割合が非常に高い傾向にあることがわかる。

栃木県の「平成 27 年度訪県外国人動向調査」（※）によると、訪問者のうち日帰りが 57%、欧米豪の旅行者が 68%と、上記と同様の傾向が見られるほか、20 代が 32%、30 代が 31%と若い世代が多い傾向がある。訪日回数では、アジアはリピーターが 75%であるのに対し、欧米豪は初来日が 70%となっている。情報源については、全体的に口コミでの来訪が 30%程度と多く、また、アジアでは SNS が 24%、欧米豪ではガイドブックが 33%と、地域ごとに重視する情報源に特徴が見られる。旅行内容では、世界遺産観光が 94%、景勝地観光が 53%、温泉が 34%となっている。また、旅行内容や受入環境に関する満足度調査では、期待通り・期待以上という回答がほとんどだが、旅行内容ではテーマパークとまち歩き、受入環境では無料公衆無線 LAN、観光施設や案内標識、パンフレット等での多言語表記、飲食店等でのクレジットカード等の決済環境について、それぞれ 10%以上が不満と回答している。

※ 日光市・宇都宮市での、夏季（6～8 月）のみの調査のため、回答に偏りがある可能性がある。

日光国立公園



出典:平成27年環境省国立公園別実利用者数推計値



出典:平成27年栃木県観光客入込数・宿泊数推定調査結果

全国

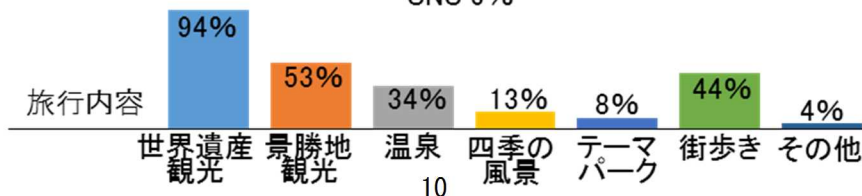
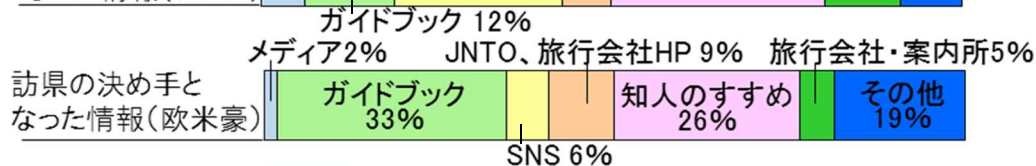
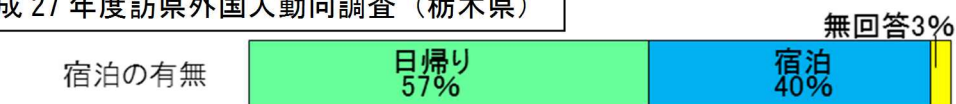


出典:日本政府観光局訪日外客数(平成27年)



出典:平成27年環境省国立公園別実利用者数推計値

平成27年度訪県外国人動向調査(栃木県)



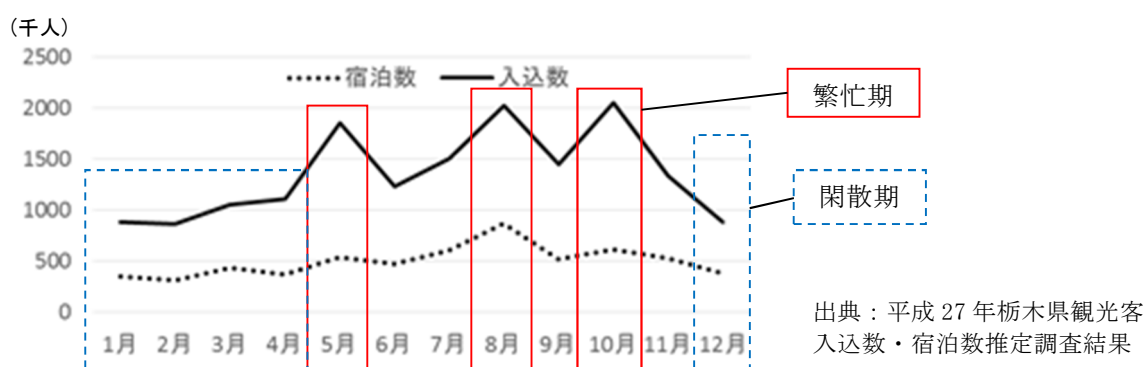
(3) 日光国立公園の課題

ア. 観光客の利用状況

外国人観光客については、日帰りでの訪問者が多く、宿泊・長期滞在にはつながっていないため、多様なニーズに応じた宿泊プラン・施設の整備、宿泊者向けの夜間や朝のコンテンツ整備など、宿泊・長期滞在につながる仕組みづくりが重要となっている。また、外国人観光客が世界遺産周辺に集中し、他エリアへの周遊には至っておらず、世界遺産に訪れた外国人観光客を、いかに国立公園全体に波及させるかといった取組も検討する必要がある。

観光客全体で見ると、5月の連休や夏休み、紅葉シーズンなどに観光客が集中しており、道路交通のボトルネック箇所や駐車場の不足等が原因となり渋滞が発生し、観光流動の阻害となるなどの弊害も起こっている。一方で、冬季(12月～翌4月)は観光客数が落ち込む傾向があり、冬季を中心とした誘客促進による繁閑の平準化が課題となっている。

平成 27 年日光国立公園観光客入込数・宿泊数推計(月別・日本人を含む)



イ．自然環境・景観の保全

近年では、日光国立公園内においても、外来種の侵入や一部の湿原の乾燥化、貴重な植物の野生鳥獣による食害等の問題が発生しており、国立公園の最大の魅力である自然環境を保全する取組についても、引き続き実施していくことが重要となっている。

また、景観を阻害している廃屋等の取扱いについての検討や、展望地における眺望確保のため、自然環境や景観に影響を与えない範囲での枝落としや修景伐採についても検討するなど、国立公園全体での良質な景観の保全について検討し、実施していく必要がある。

ウ．交通

鉄道や高速道路によるアクセスが充実している一方、国立公園内の各エリアを横につなぐ公共交通機関が乏しく、エリア間の周遊が難しい状況にある。特に那須エリア～日光エリア間を移動する場合は、宇都宮市まで戻ってアクセスしなければならず、日光・鬼怒川や那須・塩原などの隣接エリアでも、エリア間をつなぐバスの本数が少ない、交通結節点まで戻ってのV字アクセスとなるなど、国立公園内を移動するための二次交通の利便性向上が課題となっている。

エ．観光資源の情報発信

日光国立公園内では、多様なガイドツアーやアクティビティ等が提供されているものの、一元的な情報発信の手段がなく、特に海外に向けての「日光国立公園」としての一体的なプロモーションが課題となっている。

オ．その他の受入態勢整備

外国人の利用実態等の調査を実施し、外国人旅行者のニーズを把握するとともに、トイレの洋式化、標識や交通機関における案内表示の多言語化等のユニバーサルデザイン化改修、フリーWi-Fi整備、外国語対応可能な自然ガイド等の人材育成、クレジットカード決済環境の整備など、外国人観光客受入に向けた態勢整備の更なる推進が求められる。

2. コンセプトと取組の方向性

(1) 日光国立公園のコンセプト（基本概念）

日光国立公園は、世界文化遺産やラムサール条約湿地など、世界に認められた貴重な観光資源があり、豊富な水資源や森林を中心とした日本ならではの自然景観、歴史・文化、温泉など、皇族や華族、外国大使にも愛された上質で奥深い「プレミアムな魅力」と触れ合うことができる。また、東京から約2時間という近距離にありながら、都会とは全く違う魅力を全身で体験したり、都会の喧噪を離れた癒やしの時を過ごしたりすることができる。

NIKKO is NIPPON

自然・歴史・文化 美しい「日本」を感じられる
東京圏のプレミアムリゾート



ラムサール条約湿地
戦場ヶ原



世界文化遺産 神橋



那須平成の森・駒止の滝
(那須御用邸敷地の一部)

プレミアムな魅力



塩原天皇の間記念公園
(旧塩原御用邸)



鬼怒川温泉

東京から約2時間



（２）目指す姿と取組の方向性

ア．目指す姿と取組の方向性

① 上質で奥深い魅力を満喫できる国立公園

上質な観光資源を磨き上げながら、新たな体験メニュー等も創出していくことで、日光国立公園の魅力を向上させるとともに、外国人観光客の受入態勢を整備し、訪れやすく過ごしやすい環境を整え、快適でストレス無くプレミアムな魅力を楽しむことができる国立公園を目指す。

② 体験・滞在・周遊型の国立公園

各エリア間の連携を強化し、観光資源をつなぐことで、点ではなく線・面的に周遊できる仕組みを作り、国立公園内で長期滞在・広域周遊し、地域ごとに特色が異なる自然や文化を体験しながら、表面的な魅力だけでなく、本質的な部分まで味わえる国立公園を目指す。

③ 低炭素・循環型を実現する国立公園

マイカー利用から公共交通・自転車等の利用への転換、次世代自動車等の活用、再生可能エネルギーの活用など、CO₂や廃棄物等の排出を削減していくゼロエミッションの取組を進めることで、周辺の自然環境を守るだけでなく、地球環境とも調和し、環境意識の高い欧州や豪州からの旅行者にも訴求する、豊かな自然環境と共生した国立公園を目指す。

イ．コンセプト（基本概念）を具現化する取組案

- 湖、滝、湿原、溪流など、豊富な水資源を活かし、美しく多様な風景と水を満喫するアクティビティをつなぐ
- 日光開山の祖・勝道上人と男体山、奥日光湯元温泉のつながりなど、歴史・文化と自然の一体性を解説
- 豊富な泉質や独特の湯治文化を持つ特徴的な温泉をつなぐ広域の湯巡り
- 旧外国大使館別荘や金谷ホテル歴史館、旧御用邸、旧華族の別荘など、かつての高級リゾート文化をつなぎ、追体験する

3. ターゲットとする利用者層

国・地域別のターゲットでは、これまでの来訪者の傾向から、利用者数の多い欧米系の個人旅行者を中心に誘客を行いながら、近年増加傾向にある東アジアやASEAN諸国などのアジア市場も開拓していく。

年代別のターゲットでは、来訪者の多い20～30代の若い世代に加え、中高年層やファミリー層にも訴求する観光資源の磨き上げや受入態勢整備を行い、幅広い年代層を誘客していく。

また、エリア内へのラグジュアリーホテル進出等を踏まえ、富裕層も含めたより幅広い層をターゲットとし、富裕層も満足できる環境整備を進めていくとともに、バックパッカーから高級ホテルの宿泊者まで、それぞれの層に合わせた観光資源を活用した誘客を行っていく。

このほか、日光地域が日本国内の修学旅行先として選ばれてきた実績から、国内のインターナショナルスクールや海外の学校等の教育旅行についても積極的な誘致を行う。

各エリアや素材ごとの詳細なターゲットについては、今後、外国人の動向調査やニーズ調査を元に、2017（平成29）年度末を目途に検討を進めていく。

なお、本プログラムは国立公園への外国人観光客を目指すためのものであり、外国人の誘客や受入に特化した内容となっているが、日光国立公園利用者の大部分を占める日本人観光客の誘客についても、引き続き促進していく。

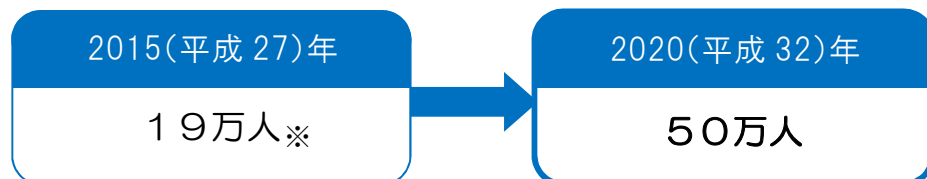


4. 目標

(1) 数値目標

ア. 訪日外国人利用者数

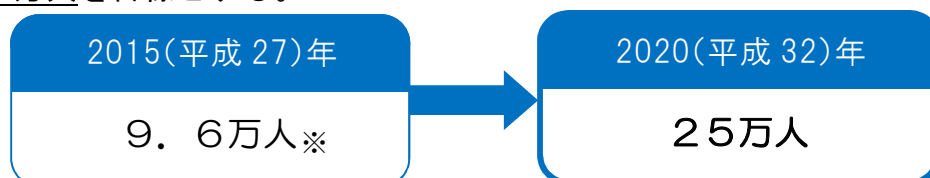
2020（平成 32）年の日光国立公園の訪日外国人利用者数 50 万人を目標とする。



※ 2015（平成 27）年環境省国立公園別実利用者数推計値による。（標準誤差率 5%）

イ. 訪日外国人宿泊者数

「とちぎ元気発信プラン」に定められた「観光立県とちぎプロジェクト」で掲げる外国人宿泊数の目標（2014（平成 26）年 14.6 万人→2020（平成 32）年 30.0 万人）を踏まえつつ、栃木県内での外国人宿泊者の半数超が日光国立公園周辺の宿泊者であることを踏まえ、国立公園周辺の宿泊者数を満喫プロジェクトで大きく伸ばす余地があることから、2020（平成 32）年の日光国立公園及びその周辺での訪日外国人宿泊者数 25 万人を目標とする。



※ 【内訳】 日光市 : 70,295 人 那須塩原市 : 10,265 人
 那須町 : 14,292 人 矢板市 : 726 人
 塩谷町 : 5 人

2015（平成 27）年栃木県観光客入込数・宿泊数推定調査結果による。

(2) 質的目標

「本物の出会い 栃木」デスティネーションキャンペーン等の大型観光キャンペーンと連携し、受入態勢整備や観光資源の磨き上げによる質の向上、滞在・周遊の快適性・利便性の向上による来訪者の満足度の向上を図る。

5. プロジェクトの実施

(1) アクセスルート上での取組方針

日光市、那須塩原市、那須町では、独自の景観条例及び屋外広告物条例を定め、国立公園エリア内やアクセスルート上での景観保全に取り組んでいる。また、矢板市、塩谷町では、栃木県の景観条例及び屋外広告物条例が適用されている。

自然公園法や関係市町または県の景観条例及び屋外広告物条例等に則り、環境省、県、関係市町が条例の適切な運用について周知・指導し、景観の保全に努めるとともに、廃屋の取扱いの方針等について、地域協議会等で検討を進める。

また、国立公園の入口となる箇所には看板等を設置し、結界感の醸成を図るとともに、交通案内標識への「日光国立公園」の記載についても検討していく。

(2) 日光国立公園全体の取組方針

ア. 受入態勢の整備

(A) ハード整備

- ・ フリーWi-Fiの整備
- ・ 遊歩道、園地等で施設の再整備やITを活用した標識の設置等を実施
- ・ 標識等多言語化や公衆トイレ洋式化など公園施設のユニバーサルデザイン化
- ・ 駐車場等の公園利用施設の有料化と良質な維持管理手法の検討

(B) 案内機能の強化

- ・ 自然ガイド等の外国語対応力強化や質の向上
- ・ 自然ガイドの育成システムの構築
- ・ コミュニケーション支援ボード等の案内ツールの普及・活用
- ・ ビジターセンター等を複合的機能を持つ施設として再整備
- ・ 利用者向け多言語パンフレットやマップの作成
- ・ ICTを活用したデジタルガイド環境等の整備

(C) 交通アクセスの改善

- ・ 渋滞のボトルネック箇所を改良し、渋滞を緩和
- ・ 公共交通のPR・利用促進による自家用車利用からの転換
- ・ パーク&バスライド等の実施による繁忙期の混雑緩和と環境保護
- ・ 鉄道・バス等での表示やアナウンスの多言語対応

(D) その他の受入態勢整備

- ・ 富裕層向け宿泊施設の誘致を検討
- ・ 既存施設の宿泊メニューの多様化等を検討
- ・ オートキャンプ、グランピング等アウトドアでの多様な宿泊のための環境整備
- ・ クレジットカード決済環境整備
- ・ 海外クレジットカード対応ATM等の整備

イ. 観光資源の磨き上げ

- ・ 自然、歴史・文化等を深く楽しめる体験メニューやツアープログラムの開発
- ・ 既存の観光資源を外国人目線から再評価し、インバウンド向けに磨き上げ
- ・ 冬季の体験メニューの充実
- ・ 夜間や朝のメニューの充実
- ・ レンタサイクルや水上交通等、新しい交通手段の検討・整備による周遊性向上
- ・ 自然歩道と周辺の観光資源のテーマ性を持たせたネットワーク化

ウ. エリア間・素材間の連携

- ・ 日光国立公園内を横断する新たな二次交通の整備の推進
- ・ ストーリー性を持たせた広域周遊モデルコースの設定

エ. 景観整備

- ・ 自然公園法や景観条例、屋外広告物条例等の適切な運用
- ・ 廃屋の取扱い方針や眺望確保のための枝落とし、修景伐採等を検討

オ. その他

- ・ 各種計画や対策の枠組みに基づく自然環境の保全
- ・ 日光国立公園としての一元的な情報発信
- ・ 体験メニューやガイドツアー、モデルコース等の旅行商品化の促進

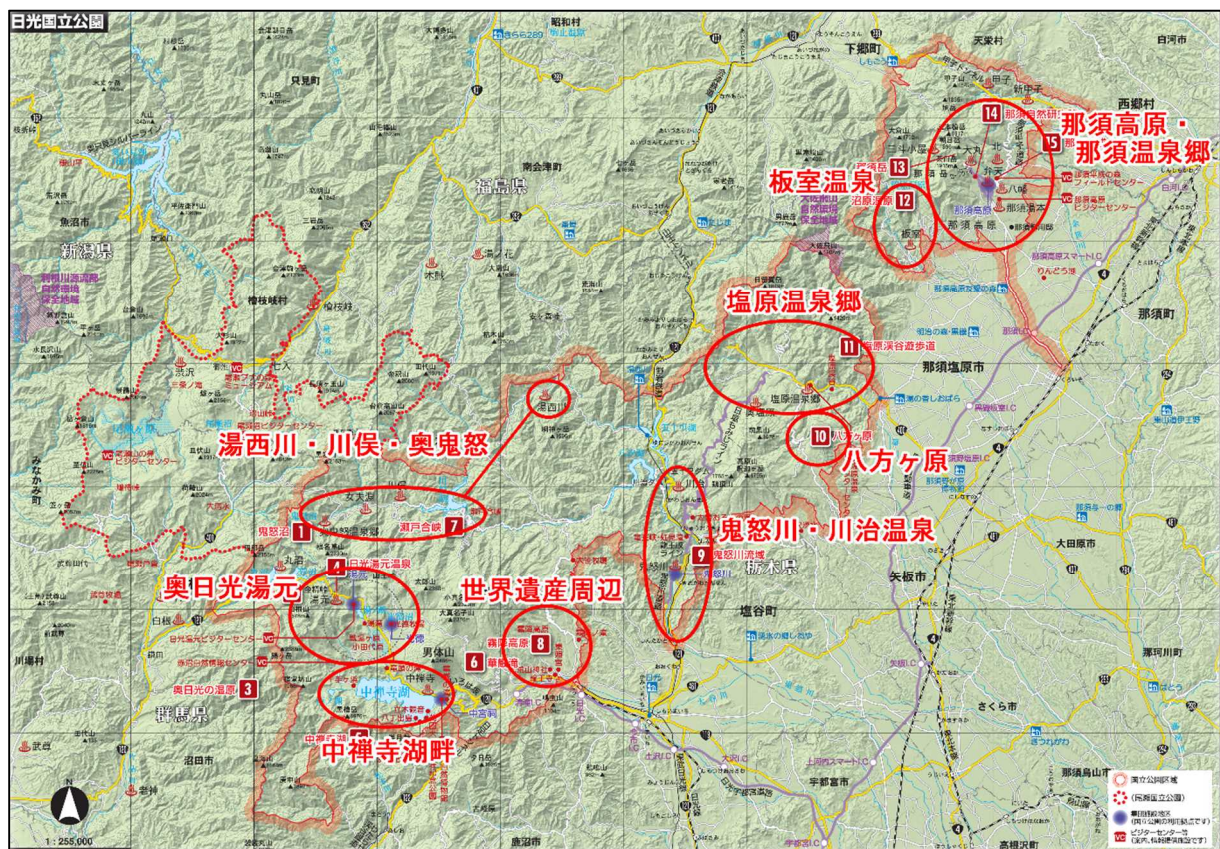
（３）各エリア・ビューポイント（重点取組地域）の取組方針

ア. ビューポイント（重点取組地域）の設定

外国人来訪の実績や、魅力的な観光資源・体験メニュー等の状況など、地域の持つポテンシャルを踏まえ、目標達成に向け先駆的・重点的に取組を推進する箇所として、計９箇所のビューポイント（重点取組地域）を以下のとおり設定する。

各地域の特色に応じた取組を行うとともに、それぞれの取組を広域的に連携させていくことで、日光国立公園全体の魅力向上と公園利用者の増加につなげる。

日光エリア	世界遺産周辺
	中禅寺湖畔
	奥日光湯元
鬼怒川エリア	鬼怒川・川治温泉
	湯西川・川俣・奥鬼怒
那須エリア	那須高原・那須温泉郷
	板室温泉
塩原エリア	塩原温泉郷
	八方ヶ原



ビューポイント(重点取組地域)概要図

イ. 各エリア・ビューポイント（重点取組地域）の取組方針

（Ａ）共通の取組

以下の取組については、全エリア・ビューポイント（重点取組地域）で広域的・横断的に実施する。取組の具体的な内容は別紙のとおり。

	内容	実施主体
ア	フリーWi-Fiの整備	環境省・栃木県・市町・民間事業者
	自然ガイド等の外国語対応力強化研修	栃木県
	コミュニケーション支援ボード等の案内ツールの普及・活用	環境省・栃木県・市町・民間事業者
	利用者向け多言語パンフレット、マップ等の作成	環境省・栃木県・市町
	公共交通利用促進による自家用車利用からの転換	環境省・栃木県・市町
	鉄道・バス等での表示やアナウンスの多言語対応	民間事業者
	富裕層向け宿泊施設の誘致の検討	環境省
	既存施設の宿泊メニューの多様化等の検討	民間事業者
	アウトドアでの多様な宿泊のための環境整備	環境省・栃木県・市町・民間事業者
	クレジットカード決済環境整備	民間事業者
	海外クレジットカード対応ATM等の整備	民間事業者
イ	既存の観光資源の外国人目線からの再評価、インバウンド向けの改善	環境省・栃木県・市町・民間事業者
	冬季の体験メニューの充実	民間事業者
	夜間や朝のメニューの充実	民間事業者
	自然歩道と周辺の観光資源のネットワーク化	環境省・栃木県・市町
ウ	日光国立公園内を横断する新たな二次交通の整備の推進	民間事業者
	ストーリー性を持たせた広域周遊モデルコースの設定と旅行商品化	環境省・栃木県・市町・民間事業者
エ	自然公園法、景観条例・屋外広告物条例の適切な運用	環境省・栃木県・市町・民間事業者
	景観を阻害する廃屋の取扱い方針等の検討	環境省・栃木県・市町
	眺望確保のための枝落としや修景伐採	環境省・林野庁・栃木県・市町
オ	各種計画や対策の枠組みに基づく自然環境の保全	環境省・栃木県・市町
	日光国立公園としての一元的な情報発信	環境省・栃木県・市町
	体験メニューやガイドツアー、モデルコース等の旅行商品化の促進	環境省・栃木県・市町・民間事業者

(B) 日光エリアの取組 ～水環境と調和した歴史遺産めぐり

I. 世界遺産周辺

i) 概要

世界遺産・日光の社寺を中心とした歴史・文化エリア。社寺の門前町や日光田母沢御用邸記念公園等、様々な歴史・文化遺産があり、外国人観光客が特に集中している。着付け体験や座禅体験等の歴史・文化体験やガイドツアーも多数実施されている。また、霧降地区は霧降高原や霧降滝などを中心とした自然エリアとなっており、スキー場跡に遊歩道が整備されているほか、滝のガイドウォークや冬季のスノーシューなどのアクティビティが提供されている。



日光田母沢御用邸記念公園



写経体験(日光山輪王寺)



霧降高原キスゲ平園地(初夏)

ii) 取組方針

歴史ガイドツアーや文化体験、霧降高原での自然体験等を中心に磨き上げを行うとともに、数多く訪れる外国人観光客を、他エリアに周遊させる仕組づくりを行う。

iii) 実施内容

	内容	実施主体	備考
ア	案内標識・トイレ等のユニバーサルデザイン化改修	栃木県・日光市	
	遊歩道の再整備	栃木県	
	神橋周辺の渋滞対策	栃木県・日光市	
イ	文化体験メニュー、歴史ガイドツアー等の充実	民間事業者	
	自然体験メニュー、ガイドツアー等の充実	民間事業者	
ウ	観光案内所、宿泊施設等での他エリアの情報発信	民間事業者	NEW
エ	電線の地中化及び歩道拡幅(日光駅～神橋間)	栃木県	

※新規の取組は、備考欄に「NEW」と表記。

Ⅱ．中禅寺湖畔

i) 概要

中禅寺湖周辺の自然エリア。男体山や、中禅寺湖・華厳滝・竜頭滝等の水資源等の豊かな自然環境のほか、旧外国大使館別荘などの国際避暑地としての歴史、山岳信仰の聖地としての歴史等、歴史・文化的な資源も多数有している。



竜頭の滝(春)



イタリア大使館別荘記念公園



中禅寺湖カヌーピクニック

ii) 取組方針

国際避暑地としての歴史を体感できる一体的な施設整備を行うとともに、水上交通やレンタサイクル、歴史ガイドツアーなど新たなプログラムの創出を検討する。

iii) 実施内容

	内容	実施主体	備考
ア	案内標識・トイレ等のユニバーサルデザイン化改修	栃木県・日光市	
	県有施設への再生可能エネルギー導入、省エネ対策の検討	栃木県	NEW
	日光自然博物館の案内機能等の強化	栃木県	
	いろは坂周辺の渋滞対策	栃木県・日光市	
イ	歴史ガイドツアーの開発を検討	民間事業者	NEW
	自然体験メニュー、ガイドツアー等の充実	民間事業者	
	レンタサイクルシステムの導入	栃木県	NEW
	県営駐車場内サイクルステーションの設置	栃木県	NEW
	水上交通等新たな交通手段の検討	栃木県・日光市・民間事業者	NEW
	南岸エリアの活性化策を検討	環境省・栃木県・日光市・民間事業者	NEW

Ⅲ．奥日光湯元

i) 概要

ラムサール条約湿地「奥日光の湿原」や湯ノ湖・湯滝等の水資源、白根山等を中心とした自然エリア。赤沼自然情報センター、日光湯元ビジターセンター等、周遊のための拠点施設も充実しているほか、国民保養温泉地である奥日光湯元温泉も所在している。



小田代原(ラムサール条約湿地)



湯ノ湖



奥日光湯元温泉(源泉)

ii) 取組方針

拠点施設の機能強化やモデルコース整備等を行い、周遊のきっかけづくりを行う。

iii) 実施内容

	内容	実施主体	備考
ア	案内標識・トイレ等のユニバーサルデザイン化改修	環境省・日光市	
	公衆トイレの汚水処理機能の強化	環境省	
	遊歩道再整備及びＩＴを活用した標識の整備	環境省	
	白根山避難小屋の再整備	栃木県	
	日光湯元ビジターセンター再整備及び民間開放	環境省	
イ	自然体験メニュー、ガイドツアー等の充実	民間事業者	
エ	環境省所管地内の廃屋撤去	環境省	NEW

（Ｃ）鬼怒川エリアの取組 ～温泉と楽しむ手軽な自然体験

I. 鬼怒川・川治温泉

i) 概要

鬼怒川渓谷沿いに温泉街が立ち並ぶ温泉エリア。温泉街のまち歩きや、日光江戸村等の大型のテーマパーク等が楽しめるほか、鬼怒川ライン下りやラフティング等の渓谷を活かした様々なアクティビティも提供されている。



川治温泉



日光江戸村



ラフティング

ii) 取組方針

温泉と自然散策を組み合わせた健康体験や、温泉地を拠点にした手軽な自然体験が楽しめる場所として、散策路の整備や自然体験メニューの磨き上げを行う。

iii) 実施内容

	内容	実施主体	備考
ア	案内標識・トイレ等のユニバーサルデザイン化改修	栃木県	
	遊歩道の再整備	栃木県	
イ	自然体験メニュー、ガイドツアー、まち歩き等のツアープログラムの充実	民間事業者	

Ⅱ．湯西川・川俣・奥鬼怒

i) 概要

瀬戸合峡など溪谷の景観や高層湿原「鬼怒沼」などが楽しめる自然エリア。湯西川温泉は、平家の隠れ里として知られる歴史・文化エリアでもあり、秘湯の温泉地としても知られている。日光国立公園内でも特に雪の多い地域で、冬季には雪を活かしたイベントやアクティビティも行われている。



瀬戸合峡 渡らっしゃい吊橋



平家大祭



湯西川温泉かまくら祭

ii) 取組方針

温泉地を拠点にトレッキング等が楽しめるよう、散策経路を中心に整備を行うとともに、平家の隠れ里としての独特の歴史・文化や、自然環境、温泉等を活かし、手軽に秘境感を体験できる場として整備する。

iii) 実施内容

	内容	実施主体	備考
ア	案内標識・トイレ等のユニバーサルデザイン化改修	栃木県	
	遊歩道の再整備	栃木県	
イ	自然・文化体験メニュー、ガイドツアー等の充実	民間事業者	

(D) 那須エリアの取組 ～山や森とふれあうロイヤルリゾート

I. 那須高原・那須温泉郷

i) 概要

那須連山と山麓の豊かな森林が広がる自然エリア。開湯 1380 年超の古湯・那須湯本温泉などの温泉地も点在する。那須御用邸のある皇室ゆかりの地でもあり、御用邸敷地の一部は、那須平成の森として一般開放されている。隣接のリゾートエリアには、美術館や牧場等、様々な観光施設が点在しているほか、自転車の利用も盛んで、ロードレース等も実施されている。茶臼岳は、ロープウェイの利用が可能で、初心者から上級者まで、レベルに合わせた登山やトレッキング等が楽しめる。



那須湯本温泉(鹿の湯)



那須平成の森



那須ロープウェイ

ii) 取組方針

那須平成の森や自然歩道、野営場等を活用し、手軽に森林の中での自然体験が楽しめる環境を整備する。また、周辺のリゾートエリアと連携した周遊コースを検討する。山岳地域では、登山利用者が安全かつ快適に利用できる環境の整備を行う。

iii) 実施内容

	内容	実施主体	備考
ア	案内標識・トイレ等のユニバーサルデザイン化改修	環境省・栃木県・那須町	
	遊歩道の再整備・ITを活用した標識類の設置	環境省	
	野営場の再整備	環境省	
	ガイド育成システムの構築、那須平成の森等の研修拠点としての活用	環境省	NEW
	那須平成の森フィールドセンター、那須高原ビジターセンターの機能強化及び民間開放	環境省	NEW
	奥那須周辺の渋滞対策	栃木県・那須町	NEW
イ	自然体験メニュー、ガイドツアー等の充実	民間事業者	
	県営駐車場内サイクルステーションの設置	栃木県	NEW

Ⅱ．板室温泉

i) 概要

「下野の薬湯」と呼ばれ、「立ち湯」などの独自の湯治文化を持つ国民保養温泉地・板室温泉を擁する温泉エリア。ダム湖や溪流を活かしたカヌー等のアクティビティが提供されているほか、ホタルの鑑賞会等も行われている。



板室温泉(綱の湯)



板室ダム湖カヌー体験



天然ホタル鑑賞会

ii) 取組方針

古くから湯治の里として親しまれてきたポテンシャルを活かし、温泉と周辺の自然体験とを組み合わせた新たなリフレッシュの場として整備する。

iii) 実施内容

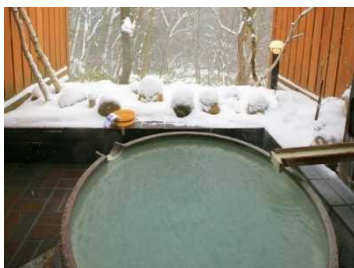
	内容	実施主体	備考
ア	案内標識・トイレ等のユニバーサルデザイン化改修	那須塩原市	
イ	自然・文化体験メニュー、ガイドツアー等の充実	那須塩原市・民間事業者	

(E) 塩原エリアの取組 ～7色の温泉と溪谷アクティビティ

I. 塩原温泉郷

i) 概要

溪谷沿いに温泉街が広がり、6泉質・7色の温泉が楽しめる温泉エリア。多くの文人・墨客に愛された温泉地としても知られている。塩原温泉ビジターセンターによる自然体験ツアーや、溪谷を活かしたキャニオニング等のアクティビティも提供されている。



塩原温泉郷



ビジターセンターによるガイドツアー



キャニオニング

ii) 取組方針

温泉を拠点に、本格的な自然体験が楽しめるよう、ガイドが使用する歩道等の整備や、自然体験プログラムの磨き上げ等を行う。

iii) 実施内容

	内容	実施主体	備考
ア	案内標識・トイレ等のユニバーサルデザイン化改修	栃木県・ 那須塩原市	
	遊歩道の再整備、ＩＴを活用した標識等の設置	栃木県	
	塩原温泉ビジターセンターの機能強化	栃木県	
イ	自然体験メニュー、ガイドツアー等の充実	那須塩原市・ 民間事業者	

Ⅱ．八方ヶ原

i) 概要

ツツジの群生地として知られる自然エリア。遊歩道が整備されており、山の駅たかはら等を拠点にしたハイキング利用が可能。山の駅たかはらでは、滝巡りハイキングやスノーシューハイキングなどのイベントプログラムが提供されている。また、周辺では自転車のヒルクライムレースも行われている。



ツツジ群生地



山の駅たかはら

ii) 取組方針

ツツジの群生地を中心に、安全かつ快適に利用できるよう施設整備を進めるとともに、山の駅たかはらを拠点としたハイキング、アクティビティ利用や、隣接する塩原温泉郷を拠点としたハイキング利用等を検討する。

iii) 実施内容

	内容	実施主体	備考
ア	案内標識・トイレ等のユニバーサルデザイン化改修	栃木県・矢板市	
	遊歩道の再整備	栃木県・矢板市	
イ	国立公園内の市所有バス運行による渋滞緩和対策 (ツツジの時期)	矢板市	

（４）宣伝・誘客の方針

ア．全体としての方針

本プログラムに掲げる日光国立公園のコンセプトや目標を全ての関係者が共有し、今後設置予定となっているDMO（※）などを活用し、日光国立公園として一体的に情報発信を行っていくことで、日光国立公園全体での誘客を図る。

また、一体的な宣伝を実施する際には、世界的にも知名度のある「日光」のネームバリューや、東京に近いという利点を最大限に活用した宣伝展開を実施する。

併せて、海外の国立公園との姉妹提携等による相互の情報発信等についても検討していく。

イ．ターゲット・情報接触段階に応じた方針

（Ａ）観光関連事業者向けの宣伝

I．発地（海外向け）の宣伝

海外の旅行エージェントによる旅行商品造成・情報発信の促進のため、J N T O等と連携しながら、旅行エージェントを招へいしたファムトリップを実施する。

併せて、自治体による海外プロモーションや旅行博でのPRにおいても、日光国立公園としての情報発信を行っていく。

II．発地（国内拠点向け）・着地（日光国立公園内）の宣伝

2018（平成30）年開催の「本物の出会い 栃木」デスティネーションキャンペーン等の大型キャンペーンや、地域や民間事業者の実施する様々な取組とも連携しながら、国内旅行エージェントによる現地でのガイドツアーや体験ツアー等のオプションルツアーの造成を促進していく。

※DMO：Destination Management Organization の略。

地域と協働して観光地づくりを行う、専門性の高い法人のこと。

（Ｂ）個人向けの宣伝

Ⅰ．発地（海外向け）の宣伝

環境省ホームページや、県の既存の多言語ホームページを情報のハブ的に活用し、日光国立公園の魅力や見所、体験メニュー等を一体的に発信していくほか、WEBと連動したSNS、動画配信等による情報発信を実施する。

また、特に欧米系の個人旅行者の重要な情報源になっている「ロンリープラネット」等のガイドブックや「ジャパンガイド」、「トリップアドバイザー」等の情報サイトへの掲載についても働きかけを行う。

Ⅱ．発地（国内拠点向け）の宣伝

JNTOが認定する外国人観光案内所のうち、全国のカテゴリーⅢに該当する案内所や、日光国立公園周辺及び京都や広島等の外国人観光客が集中するエリアのカテゴリーⅡの案内所、ホテルコンシェルジュ用の案内資料を作成・配布し、観光案内やツアー手配の担当者向けに、日光国立公園の観光資源や体験等の予約方法、交通アクセス等に関する情報発信を行う。

また、近隣の国際空港や首都圏のJR駅等、多くのインバウンド旅行者が見込める交通拠点での広告掲出や、前述の外国人観光案内所やホテルへの旅行者向けの誘客パンフレット等の作成・配架による情報発信を行う。

さらに、栃木県内の国立公園エリア外の観光資源や、会津や尾瀬など日光国立公園隣接地域の観光資源と連携した周遊ルート、十和田八幡平国立公園等、周辺の満喫プロジェクト先導モデル公園と連携した国立公園をつなぐ周遊ルート等についても検討しながら、既存の広域観光周遊ルート「東京回廊」の取組とも連携し、広域での観光流動の促進を目指す。

Ⅲ．着地（日光国立公園内）の宣伝

日光国立公園エリア内各地域の観光情報を他の地域の観光施設や宿泊施設、案内所等でも発信するとともに、訪問者のSNSでの口コミ発信も促進していくことで、国立公園内での周遊促進及びリピーターの確保を狙った仕組みづくりを実施する。

(5) 取組のスケジュール

観光資源の磨き上げや宣伝・誘客等については、「本物の出会い 栃木」デスティネーションキャンペーン等の他イベントと一体的に取り組み、相乗効果を狙う。

また、日光国立公園満喫プロジェクトの取組推進に当たっては、他イベントとの関連や、外国人来訪実績等から特に先駆的に改善するビューポイントを選定し、先駆箇所成果を他の箇所に応用していく。

年度		2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(H31)	2020(H32)
イベント等			プレDC、山の 日、技能五輪	DC、日本の旬 北関東	アフターDC、ラ グビーW杯	東京五輪
取組	受入態勢整備	ステップアッププログラム策定	ハード整備			
			案内機能強化			
			交通アクセス改善			
			宿泊施設の充実			
	磨き上げ		体験メニュー等の充実、外国人向けの改善			
			新しい交通手段の検討・整備			
			遊歩道のネットワーク化			
	連携		国立公園を横断する二次交通の整備の推進			
			モデルコースの設定			
	景観整備		景観整備			
	宣伝		宣伝			
数値目標達成目安 (外国人宿泊者数)		約10万人 (見込)		15万人 (中間値)		25万人

取組スケジュールのイメージ

2020（平成32）年以降についても、本プログラムでの取組を継続し、引き続き誘客促進等に取り組んでいくことで、持続可能なプログラムを目指す。

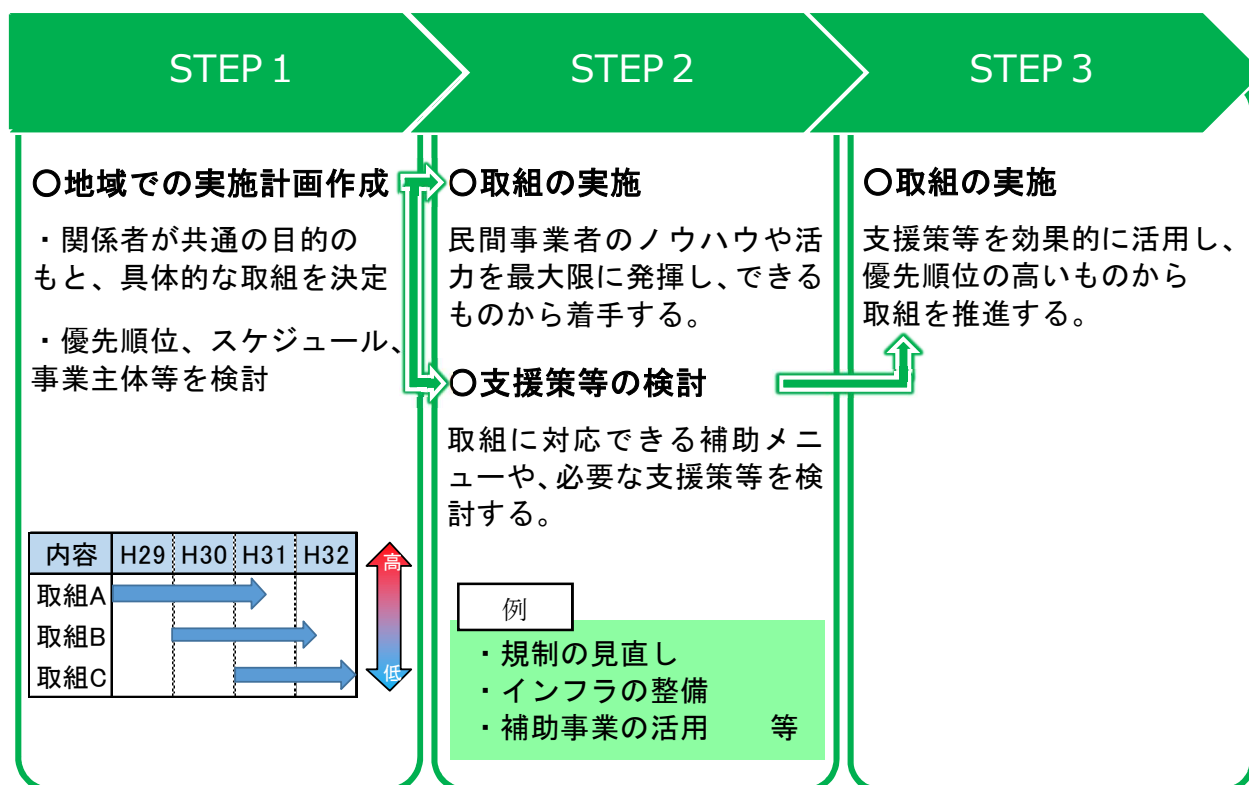
（６）推進体制

本プログラムを確実に実行していくには、日光国立公園全体の取組の検討や進捗管理を行う地域協議会及び作業部会のほか、各地域における官民連携の推進組織が必要となる。

環境省・林野庁・国土交通省・観光庁等の国の機関、関係自治体、交通事業者・宿泊事業者・観光団体等の民間事業者が連携し、発足予定となっているDMOや、Destinationキャンペーン地域分科会、インバウンド協議会等の既存組織を推進組織として、一体的に取組を進めていく。



（７）地域ごとの取組の進め方



6. 効果検証

（１）目標達成率による検証

2020（平成 32）年度までの環境省国立公園別実利用者数推計値による日光国立公園外国人利用者数推計値及び栃木県観光客入込数・宿泊数推計調査による日光国立公園周辺の外国人宿泊者数の推移により量的な検証を行う。

（２）聞き取り調査による検証

日光国立公園の複数箇所で定期的に外国人観光客に対する聞き取りまたはアンケート等を実施し、滞在日数や消費額等の推移から効果を検証していくとともに、日光国立公園の情報をどのような媒体から取得したか、受入環境整備状況に対する評価、満足度等についても調査し、質的な面からの効果検証の指標についても検討する。

（３）検証内容の反映

効果検証の内容と本プログラムの取組状況を踏まえ、地域協議会での議論を通じて、必要に応じ、本プログラムを改定していく。

参考資料

1. 日光国立公園満喫プロジェクト地域協議会構成員

所属	職名	構成員氏名
関東地方環境事務所	所長	笠井 俊彦
関東運輸局	観光部長	日置 滋
関東地方整備局	企画部長	大野 昌仁
関東森林管理局	計画保全部長	井出 光俊
栃木県	環境森林部長	金田 尊男
	産業労働観光部長	香川 眞史
	県土整備部長	印南 洋之
日光市	副市長	湯澤 光明
矢板市	副市長代理総合政策課長	横塚 順一
那須塩原市	副市長	人見 寛敏
塩谷町	産業振興課長	手塚 義久
那須町	副町長	山田 正美
(公社)栃木県観光物産協会	会長	新井 俊一
(一社)日光市観光協会	会長	八木澤 哲男
矢板市観光協会	会長	高柳 眞知子
塩原温泉観光協会	会長	君島 将介
黒磯観光協会	会長	荻原 正寿
(一社)那須町観光協会	会長	廣川 琢哉
東日本旅客鉄道(株)大宮支社	営業部長	柳澤 美香
東武鉄道(株)	経営企画部参事役	関山 和敏
野岩鉄道(株)	常務取締役鉄道部長	中島 通夫
わたらせ渓谷鉄道(株)	総務企画部長	小西 明
(一社)栃木県バス協会	専務理事	島田 昌司
(一社)栃木県タクシー協会	専務理事	鉢村 敏雄
東日本高速道路(株)	那須管理事務所長	小橋 尚
(株)下野新聞社	代表取締役社長	岸本 卓也
(株)とちぎテレビ	代表取締役社長	吉澤 文夫
(株)エフエム栃木	代表取締役社長	関根 房三
(株)足利銀行	代表取締役頭取	松下 正直
(株)栃木銀行	代表取締役頭取	黒本 淳之介
宇都宮大学	理事(研究・産学連携担当)・副学長	池田 宰

2. 日光国立公園満喫プロジェクト作業部会コアメンバー 構成団体・構成員

所属	氏名
日光湯元ビジターセンター	
那須平成の森	
塩原温泉ビジターセンター	
(株)日光自然博物館	
東日本旅客鉄道(株)大宮支社	
東武鉄道(株)	
日光千姫物語	根本 芳彦
鬼怒川グランドホテル夢の季	波木 恵美
(株)下野新聞社	吉永 智和
(株)とちぎテレビ	大坂 和也
宇都宮大学	西須 紀昭
(株)JTB関東 法人営業宇都宮支店	石崎 忠行
	竹村 潤一
(株)大田原ツーリズム	田邊 優介
(株)ファーマーズフォレスト	石崎 美映子
	原田 和之

3. 検討経過

- (1) 平成28年9月16日 第1回地域協議会
地域協議会設立総会
- (2) 平成28年10月19日 第1回作業部会
コアメンバーに加え、自然体験事業者等に広く声かけし、先進取組事例についての講演会と課題等の洗い出しのためのグループワークを実施
- (3) 平成28年11月11日 第2回作業部会
コアメンバーによる日光国立公園ステップアッププログラム2020草案の検討
- (4) 平成28年11月17日 第2回地域協議会
日光国立公園ステップアッププログラム2020中間とりまとめ案の検討
- (5) 平成28年12月8日 第3回作業部会
日光国立公園ステップアッププログラム2020案の検討
- (6) 平成28年12月26日 第3回地域協議会
日光国立公園ステップアッププログラム2020案の検討、策定

VERY GOOD LOCAL

とちぎ



本物の
出会い
栃木

発行／日光国立公園満喫プロジェクト事務局

栃木県環境森林部自然環境課

〒320-8501 栃木県宇都宮市埴田1-1-20

TEL：028-623-3211

環境省関東地方環境事務所

〒330-6018 埼玉県さいたま市中央区新都心11-2

明治安田生命さいたま新都心ビル18F

TEL：048-600-0516

2016（平成28）年12月26日策定